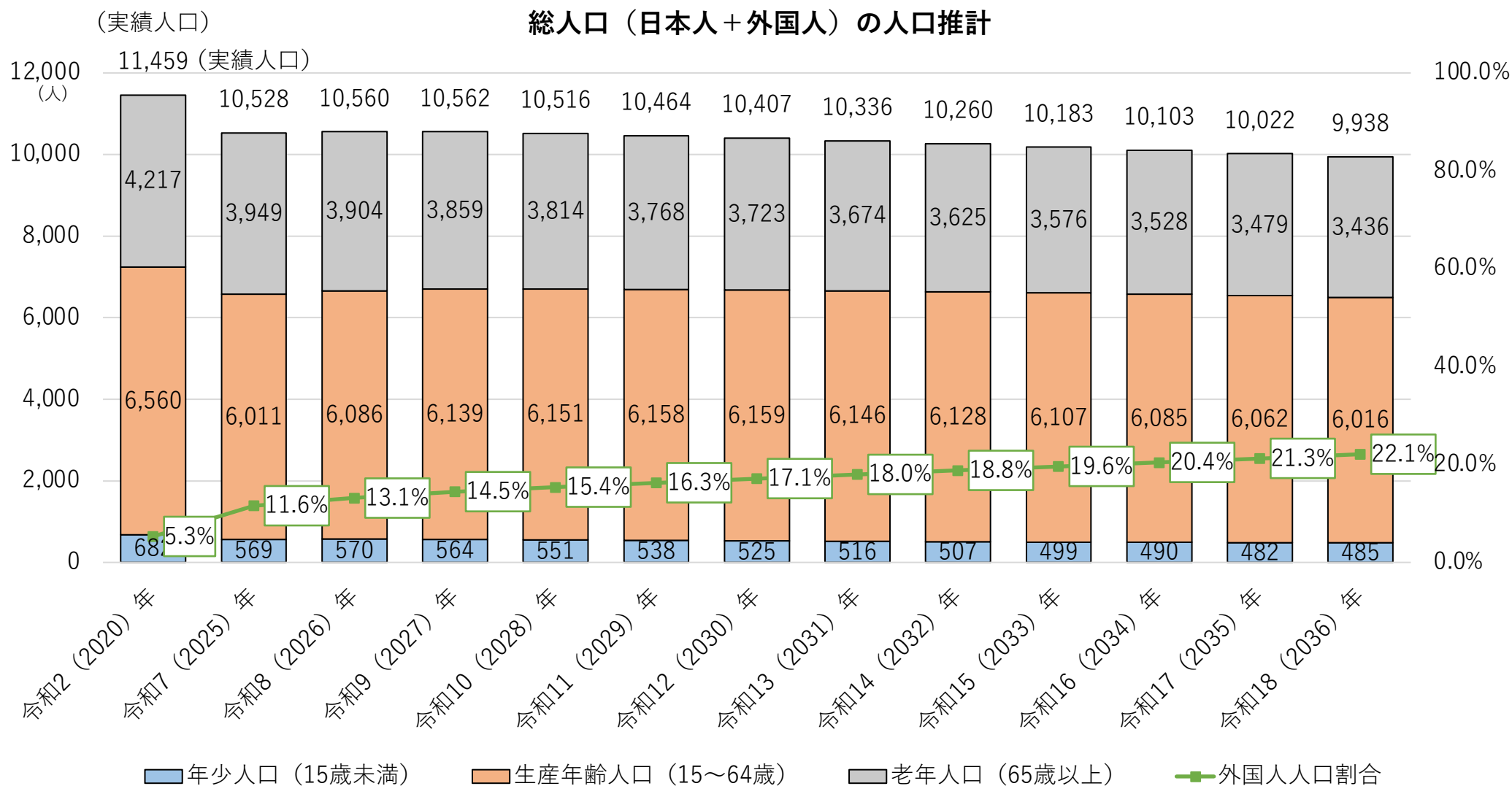


総人口（日本人+外国人）の将来推計

- 当推計パターンでは、令和18年までの人口は、外国人人口の増加により1万人前後で推移する推計結果となった。計画最終年度の令和18（2036）年に人口1万人を切り、9,938人になることが見込まれている。
- 令和18（2036）年には、総人口の2割が外国人人口となる可能性が示唆される。

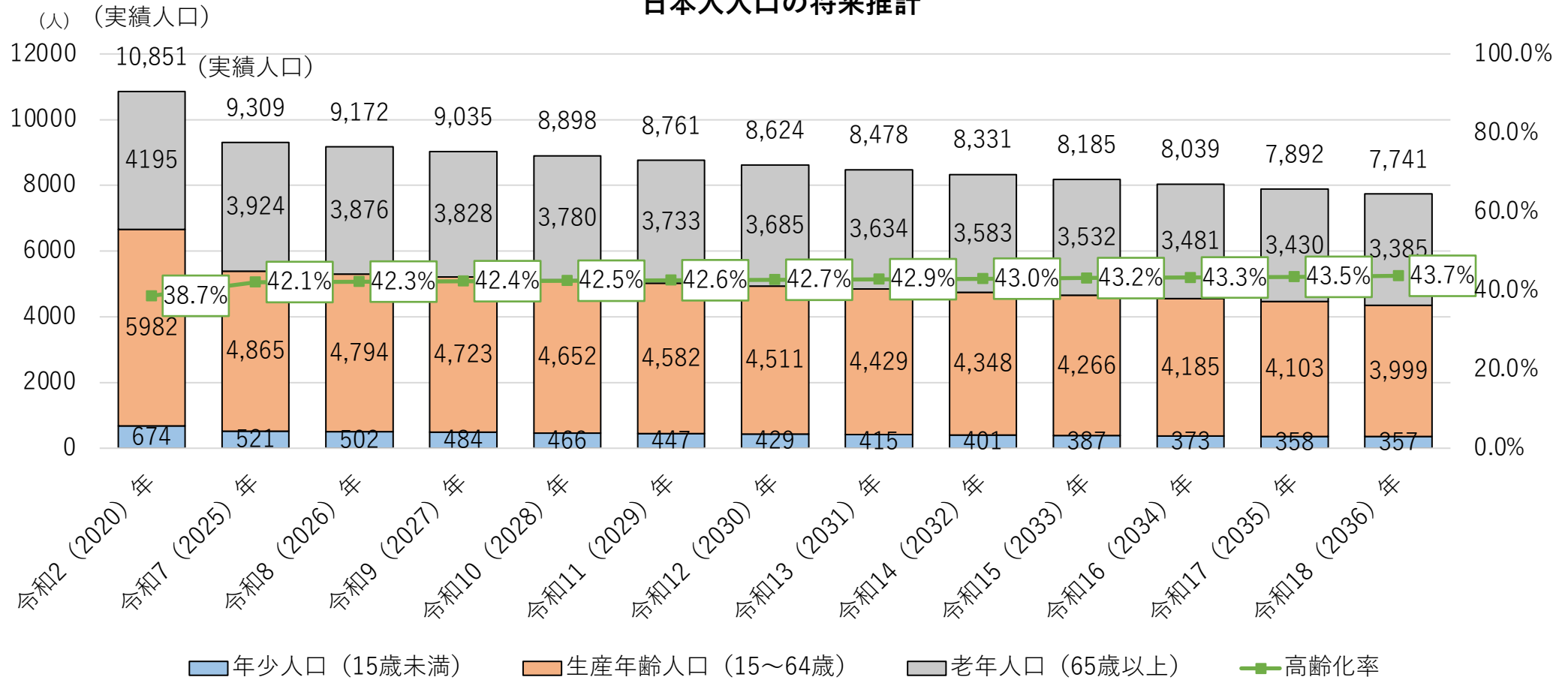


※外国人人口の実績人口は住民基本台帳年齢階級別人口にもとづくため、令和2年及び令和7年の実績人口は国勢調査結果と一致しない。

日本人人口の将来推計

- 日本人人口は、令和2（2020）年から令和7（2025）年にかけて1,542人減少（14.2%減）した。
- 令和18（2036）年には7,741人となり、令和7（2025）年と比較して1,568人減（16.8%減）という推計結果となっている。
- 年齢3区分別人口の割合をみると、年少人口（0～14歳）は4.6%、生産年齢人口（15～64歳）は51.7%、老年人口（65歳以上）は43.7%となり、令和7年時点の外国人を含む総人口の高齢化率と比較して、日本人人口の高齢化が進むことがわかる。

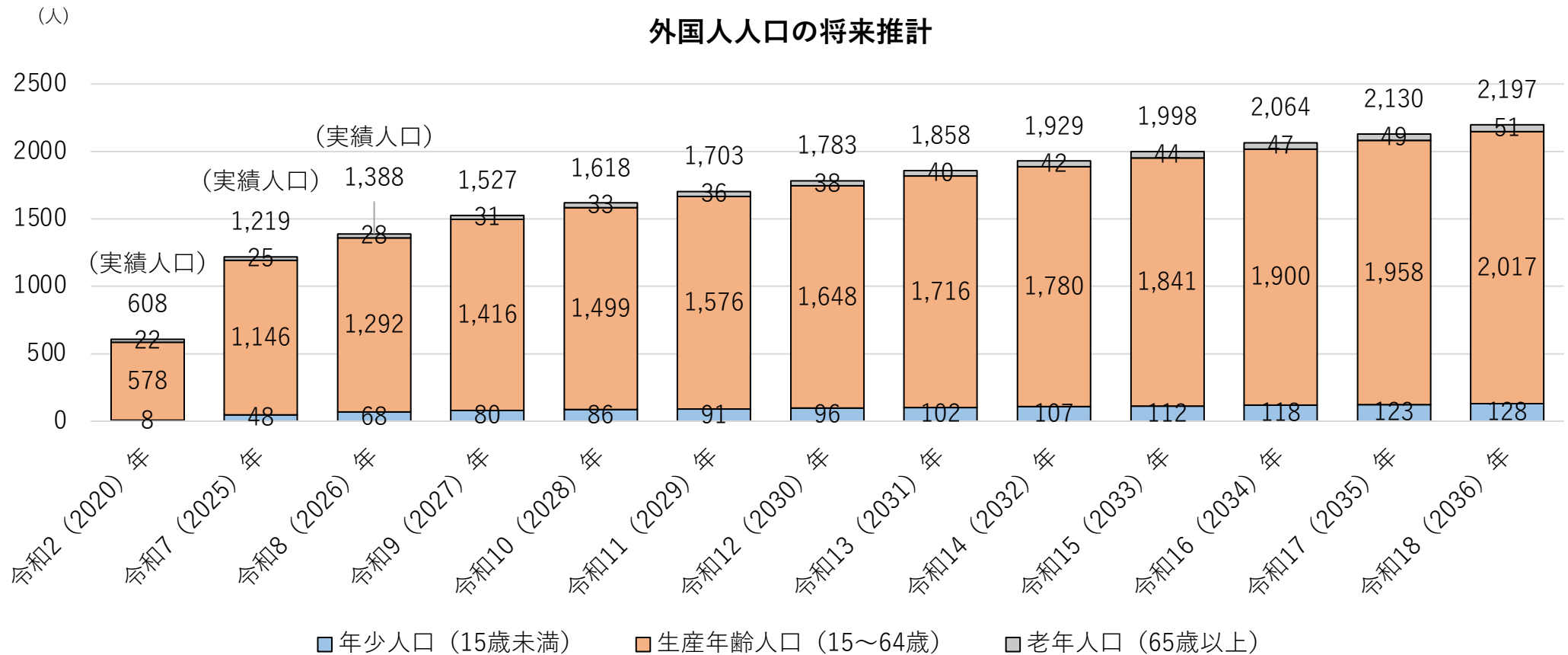
日本人人口の将来推計



出典：
 令和2年：令和2年国勢調査 ※年齢不詳人口は年齢別人口構成比で分
 令和7年：令和7年国勢調査人口速報集計 ※年齢別人口は住民基本台帳年齢階級別人口（令和7年1月1日時点）の年齢構成比を用いて算出

外国人人口の将来推計

- 外国人は、令和2（2020）年から令和7（2025）年にかけて約2倍に増加し、令和7（2025）年から令和8年（2026）年は約1.1倍の増加となっており、増加の勢いは落ち着いてきていることが示唆される。
- 当推計パターンでは、令和18（2036）年には2,197人となり、令和6（2026）年と比較して809人増と約1.6倍の増加が見込まれる。
- 年齢3区分別人口の割合をみると、生産年齢人口（15～64歳）は令和8年の93.1%から91.8%に減少し、年少人口（0～4歳）は4.9%から5.8%に増加している。転入した外国人労働者の子どもが今後増えていくことが示唆される。



出典：

<令和2～8年>住民基本台帳年齢階級別人口（市区町村別）（外国人住民）各年1月1日時点

<令和9年>住民基本台帳年齢階級別人口（市区町村別）（外国人住民）各年6月1日時点をもとに独自で推計